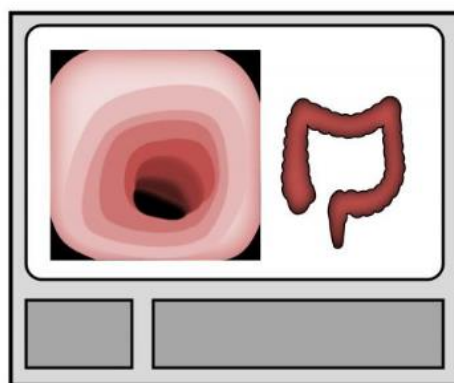
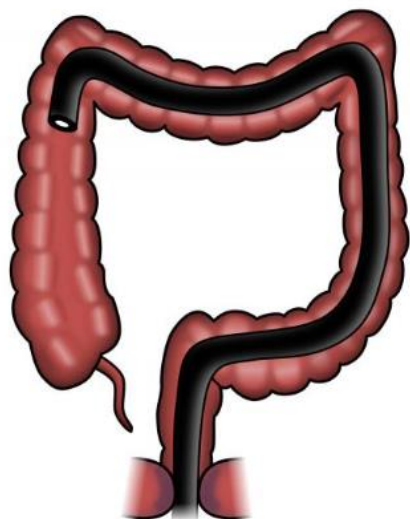


大腸ポリープ切除後の大腸内視鏡検査と便潜血検査

ポリープ切除後の大腸癌中等度リスク患者を対象に、免疫学的便潜血検査（FIT）と大腸内視鏡検査によるサーベイランスの診断精度と費用対効果が検討され、GUT 誌に報告されました。



Colonoscopy

切除後 1、2、3 年で FIT を実施し、1、2 年時の検査陽性例（ヘモグロビン値 $40\mu\text{g/g}$ 以上）には早期内視鏡検査、それ以外は 3 年時に内視鏡検査を実施しました結果、サーベイランス 3 年間での大腸癌と進行腺腫に対する感度は、ヘモグロビン値 $40\mu\text{g/g}$ 検出例で 59%と 33%でありました。



大腸癌中等度リスク患者では、費用対効果よりも、大腸がんの診断を優先し、大腸内視鏡検査を早期に行うことも選択肢の1つと考えられます。